

令和7年度

特定健診歯科口腔保健指導導入事業研修会

～大崎市実施状況～



大崎市公式キャラクター
ピタ崎さん

事業に参画した理由・背景

大崎市西部に位置する岩出山地域と鳴子温泉地域では、歯科医療機関が減少しており、将来的に受診アクセスが困難になることが危惧されている。そのため、昨年度は鳴子温泉地域、今年度は岩出山地域で実施し、両地域の歯科保健に対する意識・行動の比較を行うこととした。また、その比較結果をもとに各地域に合った働きかけを検討・実践することで、住民の歯科保健行動の変容につなげることを目的とした。

⇒効果的な啓発方法を検討し、若い世代からの健康づくりを推進していきたい。

実施にあたり期待した効果

- ・自身の口腔内状況を知り、歯科健診を受ける者を増加させる
- ・歯科保健指導を受けることにより、口腔ケアの状況を改善させる
- ・歯科受診につながる人を増加させる



実施体制

大崎市が独自に実施してきた特定健診時の「歯と歯肉の相談」事業をベースに取り組んできた。昨年度実施した鳴子温泉地域では、対象者一人ひとりに事業参加の意向確認を行ったが、希望しない方が多く、実施方法の見直しが必要であった。そこで、今年度は名称を「歯周病チェック」に改め、より多くの対象者が受けやすい体制づくりを行った。また、大崎歯科医師会の先生方よりご助言をいただき、より簡便な問診票を作成した。

※当日スタッフの役割分担として

当日スタッフ	役割
歯科医師(1名)	歯周病チェックの問診票をもとに、問診と目視により、結果票の作成指導
歯科医師補助歯科衛生士(1名)	結果票の記入補助、歯科医師の補助等
結果指導歯科衛生士(1名)	結果票の作成、指導及び結果票等の配布
誘導・記入補助スタッフ(1名)	歯周病チェック問診票の記入補助・誘導

会場図

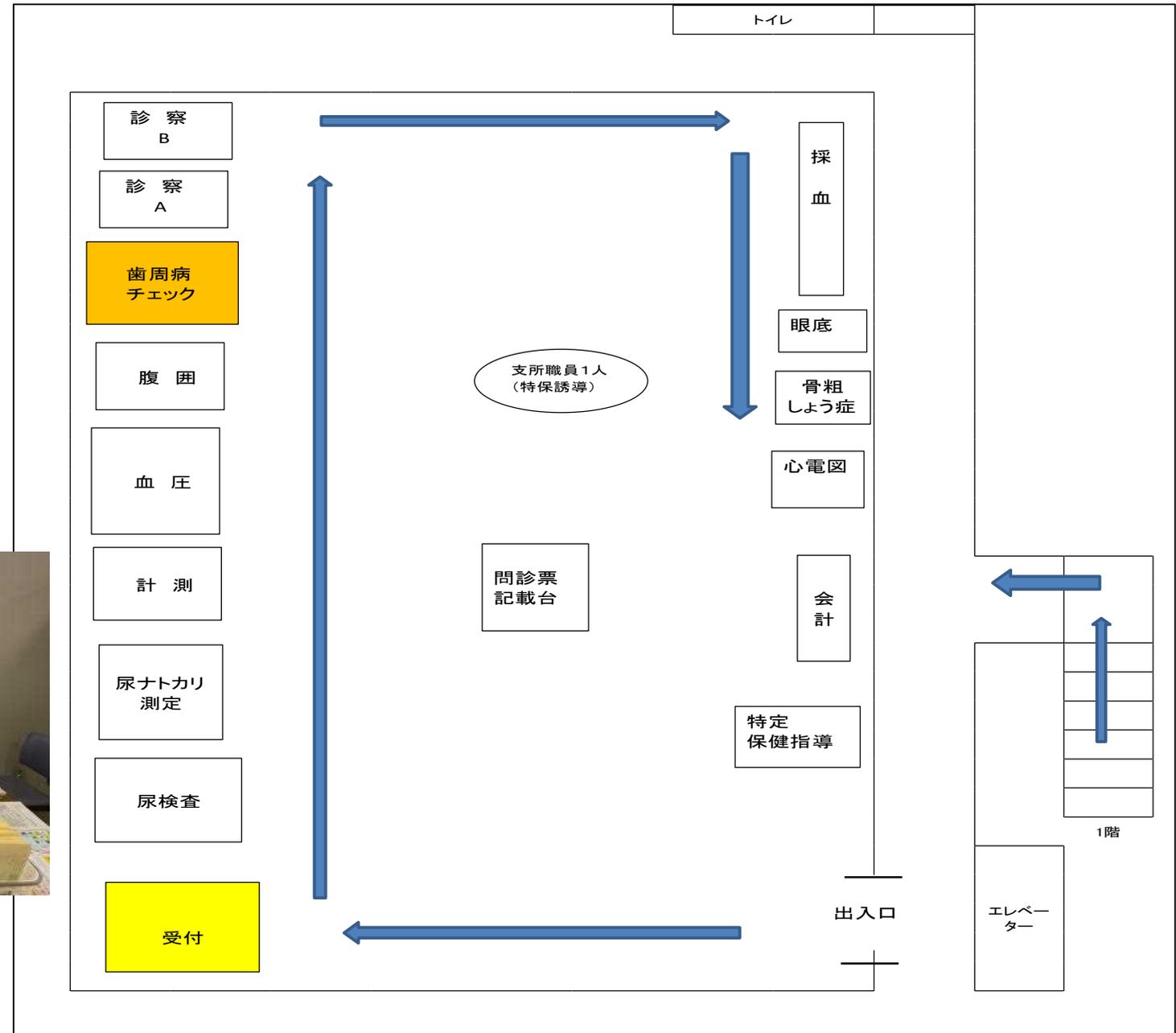
岩出山文化会館 (スコアレハウス)2階

健診団体のご協力を頂き、
特定健診医師診察前にブース
を設けた。

<会場ブース写真>



※1階で総合案内・大腸がん検診(回収)
結核肺がん検診・胃がん検診を実施



実施結果

令和7年度岩出山地域実施結果

月日	特定健診受診者数 (40~74歳)	事業参加者数	事業参加割合
7月3日(木)	116名	85名	73.3%
7月4日(金)	90名	63名	70.0%
7月5日(土)	97名	70名	72.2%
7月7日(月)	115名	74名	64.3%
7月8日(火)	113名	57名	50.4%
7月9日(水)	106名	50名	47.2%
7月10日(木)	76名	53名	69.7%
計	713名	452名	63.4%

参考:令和6年度鳴子温泉地域実施結果

実施日数	特定健診受診者数 (40~74歳)	事業参加者数	事業参加割合
6日間	448名	127名	28.3%

実施して良かったこと



来談者(事業参加者)が大幅に増加

◎令和6年度鳴子温泉地域と令和7年度岩出山地域の比較

【実施割合及び事業参加者数】

令和6年度鳴子温泉地域 **28.3%(127人)** ⇒ 令和7年度岩出山地域 **63.4%(452人)**

【1日あたりの平均事業参加者数】

令和6年度鳴子温泉地域 **21.2人** ⇒ 令和7年度岩出山地域 **64.6人**

◎令和6年度と令和7年度の市全域比較

【実施割合及び来談数】

令和6年度市全域**16.1%(1287人)**⇒令和7年度市全域**71.3%(5187人)**※鳴子温泉地域・岩出山地域の数含む

鳴子温泉地域、岩出山地域以外では歯科衛生士が問診票をもとに歯科保健指導を実施し、多くの対象者が自身の口腔状態に気づき、適切な歯科行動につながるきっかけの一つとなったと思われる。

残された課題



対象者の中には、特定健診会場という環境で口腔内を見られることに抵抗を感じる方も見受けられ、中には口腔内観察を拒否されるケースもあった。また、若い年代ほど歯肉の状態が悪く、自覚症状がない、あるいは症状があっても受診行動に移せない方が多い傾向にある。

今後の取り組み

・2年間の実施において、職種による来談率に大きな差は見られなかった。このことから、来年度は特定健診(集団健診)の流れのひとつとして組み込み、全会場にて内科診察の前に歯科衛生士が問診票に基づいた歯科保健指導を実施できるよう準備・調整を進めている。

・大崎市全域で、各地域の特性に合わせた働きかけを行うとともに、若い世代へのアプローチを強化する。また、対象者の健康意識を高めることで、将来にわたる市民の健康づくりにつなげていく。

今後期待される効果

- ◎住民が自らの口腔状態を正しく理解し、健康意識が向上する。
- ◎適切な歯科保健行動の定着と、早期の歯科受診につながる。

生活習慣病の発症、重症化予防につながる。

